

飯田 文雄

神戸大学大学院法学研究科 教授

## 高齢化社会における社会的配分の平等化に関する国際的比較研究

本研究は、日本を初めとする先進諸国に共通して顕在化しつつある問題である、高齢化社会の到来をふまえながら、そこにおける社会的資源の平等で公正な配分のあり方に関連する問題群を、現代平等論の知見を用いながら解明しようとするものである。より具体的には、本研究では、こうした社会的資源配分の平等化という大きな問いを、1970年代以降の欧米平等論の理論的変容に関する研究 1980年代後半以降の集団別権利理論の展開に関する研究 家庭内分業の現代的変容と平等論の関係に関する研究 現代日本の社会的配分システムの制度的デザインに関する研究、という四つのより具体的な問題群に細分化した。その上で、本研究では、現代平等論の知見、とりわけロールズ、ドゥオーキン、セン、アンダーソン、フレイザー、ウィリアムス、塩野谷らの議論を参照しながら、そこに多角的な分析を加えた。その結果、本研究では、現代平等論の主たる理論的対立軸として「資源主義」対「福利主義」という両者の対立が顕在化しつつあること 今日高齢者を含む多様な少数派集団が、そのアイデンティティー集団としての永続性等の観点から集団別権利理論に組み入れられ、多様な集団相互の利益調整に関する問題群が生まれつつあること 今日の高齢化社会と女性の社会進出の拡大の同時並行的な進行状況から、現代平等論の中で職業生活とケアの家庭内分業に関する新たなモデル化が進行しつつあること、などの諸論点に関して一定の新たな知見を得ることができた。